

1 教科について

国 語

昨年度の課題

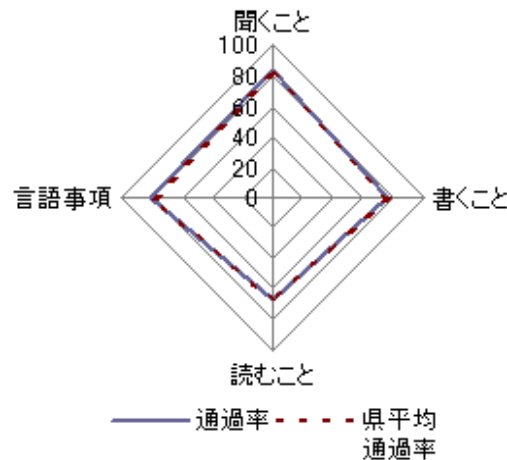
- ①読解問題で「どのように思って～と言ったのか」と心情を問う問題で4択になっているが誤答にばらつきがあった。
- ②「書くこと」で、知らせたいことを伝えるために工夫していることを2段落以上で事柄を2つ以上書くとき、その中身が的確に表現できていなかった。
- ③グラフから分かったことをメモしたり、自分の考えを書えたりすることができていなかった。

昨年度の課題を受けて
具体的に取り組んだ事項

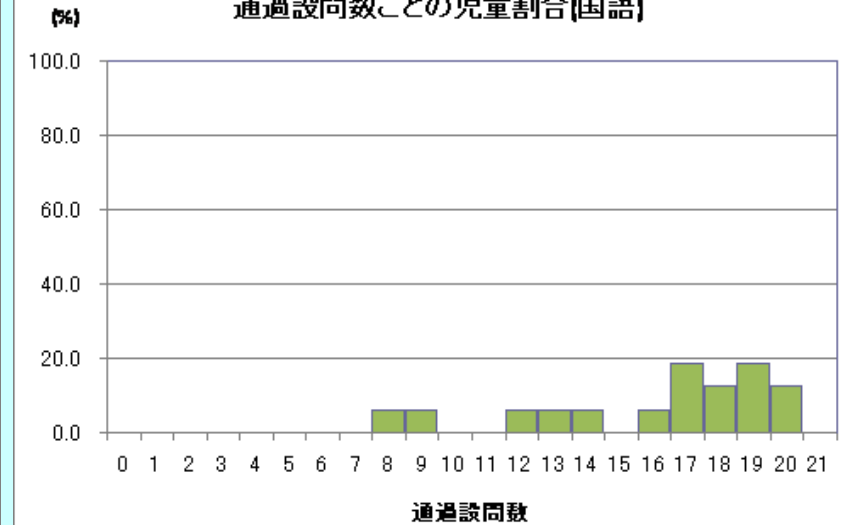
- ①朝ドリルで、計画的に漢字・ローマ字練習を取り入れて児童に正しく覚える力をつけていくようにした。
- ②授業中の発問を精選し、「じっくり考え」ワークシートなどに書かせ、心情を的確にとらえられるようにした。
- ③ことばのドリルタイムで、話すだけでなく絵・図・グラフをもとに、描写や分析などで書くことを加えて指導した。

「基礎・基本」定着状況調査通過率 学校平均 76.2% 県平均 75.0%

領域別平均通過率(国語)



通過設問数ごとの児童割合(国語)



重点課題 ◎:「基礎・基本」定着状況調査
◇:全国学力・学習状況調査

- ◎当該学年での漢字やローマ字の習熟が十分でない。
【基礎基本…子孫(読み), 人工(書き)】
【全国…たべもの(書き), happa(読み)】
- ◎気持ちを読み取り適切な語を選択する問題, つまり「叙述に即して, 叙述をもとに」読み取ることができている児童は44%である。
- ◇接続語を使って一文を二文に分けて書くことができていない。(正答0%, 無回答50%)
記述の問題の無回答が多い。

重点課題に対応した改善する指導内容及び方法

- ①朝ドリルや家庭学習を中心に、漢字・ローマ字練習の反復練習を行ってきたが、文字指導だけでなく、熟語調べや短文づくりなどを取り入れた漢字学習に改善する。
- ②ドリルタイムで読解プリントを繰り返すことにより読解力の定着を図ってきたが、国語の授業の中で、「読み」における基礎基本を指導し、読み取るための方法の習得を図るようにする。
- ③ことばのドリルタイムで描写や分析などについて書くことを行ってきたが、ドリルタイムや補充の時間に作文指導を行っていくよう改善する。書くことに慣れるための短作文や書く技能を身につけるためのテーマ作文を書かせることにより、自分の考えや思いをはっきり表現する力をつけていく。

来年度の目標値

- 読むことの通過率を県平均よりも5ポイント以上上回る。
- 言語事項の通過率を県平均よりも5ポイント以上上回る。

指導方法等の改善計画について

算数

昨年度の課題

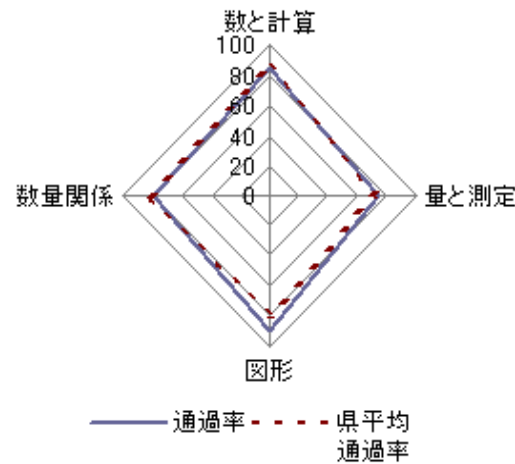
- ①単位の問題で「どのような単位であらわせればよいか」という設問で、mlをdlと誤答している児童がいた。
- ②図形の問題で、1辺が5cmと分かっている正三角形のまわりの長さを問う設問で、30cmを10cmと誤答している児童がいた。
- ③グラフを比べてその違いを書くという問題の正答率が低かった。

昨年度の課題を受けて 具体的に取組んだ事項

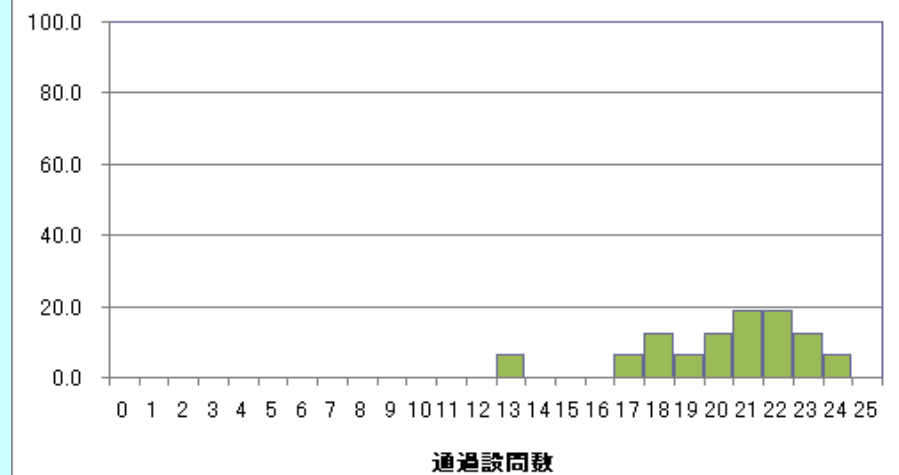
- ①単位の学習を年間を通して朝ドリルや宿題などで継続して行った。
- ②図形の学習において既習事項の復習だけでなく、少し発展的な問題や複雑な問題を与え、じっくり考えさせるようにした。
- ③ことばタイムで、話すだけでなくグラフから読み取ったことを書いたり話したりする指導も取り入れた。

「基礎・基本」定着状況調査通過率 **学校平均 81.0%** **県平均 79.8%**

領域別平均通過率(算数)



通過設問数ごとの児童割合(算数)



重点課題

- ◎: 「基礎・基本」定着状況調査
- ◇: 全国学力・学習状況調査

- ◎問題を1つの式で表す正答率が50%であった。()を使っていなかったり、数量の関係把握が不十分であったりしたため、数字を並べているだけの解答が多かった。
- ◎伴って変わる数量を例示をもとに式に表す問題の正答率が44%と低かった。文章や式の意味を正しく読み取ることが不十分である。
- ◇情報を整理選択し、筋道立てて考え、選択したり判断理由を記述したりする問題の正答率が低かった。例示されたことの意味を読み取ることができていない児童が多い。

重点課題に対応した改善する指導内容及び方法

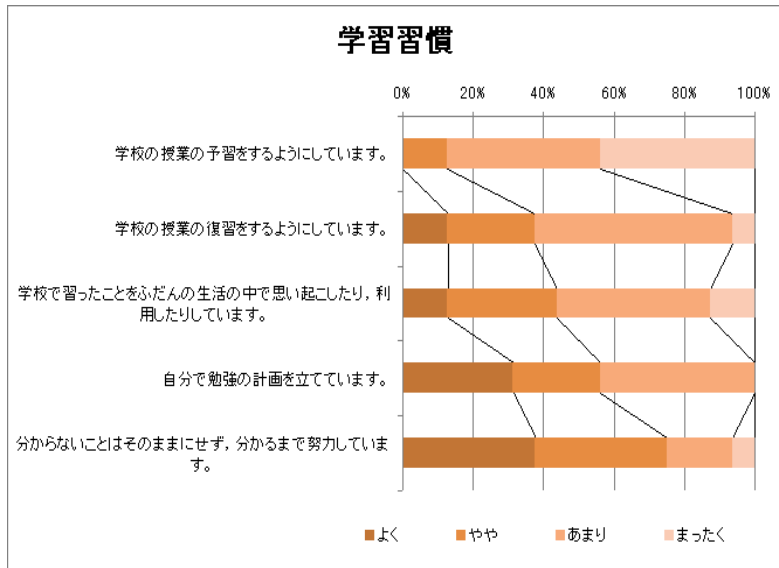
- 昨年度は課題であった図形や単位の学習を中心にドリルタイムで指導してきたが、今年度は、問題を読んだとき、たずねていることの把握ができていないことが共通した課題である。そこで、次の3点を改善策として取り組んでいく。
- ①立式の説明や問題解決の方法をノートに書かせることにより、じっくり考えて自分の考えを持ち、文章で表現することができるようにする。
 - ②問われていることだけでなく、立式に必要なキーワードにアンダーラインを引かせることを通して、問われていることの読み取り方の定着を図る。
 - ③さまざまな問題づくりをさせることにより、考える力をつける。

来年度の目標値

- 数量関係の通過率および正答率を県平均よりも5ポイント以上上回る。
- 算数の記述式問題の正答率を、今年度より10ポイント以上アップさせる。

2 質問紙調査（「基礎・基本」定着状況調査：学校質問紙調査，児童質問紙調査）（全国学力・学習状況調査：学校質問紙，児童質問紙）

(1) 生活・学習

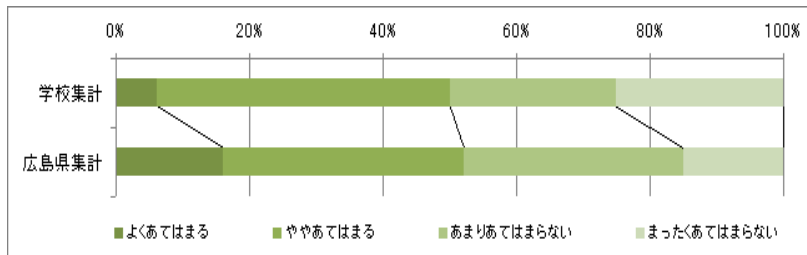


改善したい点 (◎「基礎・基本」, ◇「全国」)	今後の具体的な取組みの内容
◎授業の予習をしている児童の割合が3割以下，復習をしている児童の割合が約4割であった。 ◇社会の出来事や事件に関心を持ち，新聞やテレビのニュースなどを見ている児童は，約半数であった。	<ul style="list-style-type: none"> 全学年で系統的に家庭学習の習慣化を図る。 低学年…自分で宿題をやりきる 中学年…宿題と自主的な復習 高学年…宿題と自主的な予習・復習 家庭学習の内容の充実を図るため，学年卒を超えてよい自主学习ノートの紹介を月1回行う。 高学年の取り組みとして，ニュースを読み，心に留まった記事を切り抜いてノートに貼り記事に対する感想を書く，さらに自分の意見を書くなどレベルアップを図る。

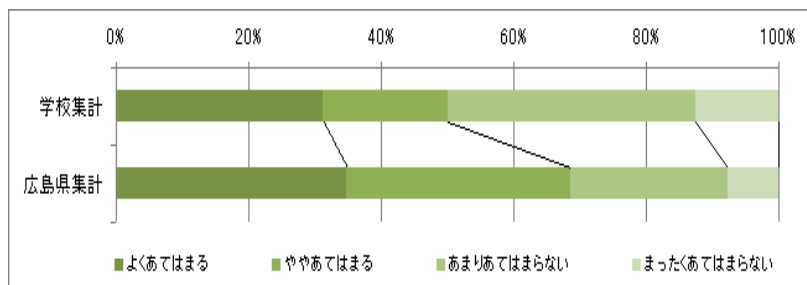
来年度の目標値	目標設定
	<ul style="list-style-type: none"> 授業の予習や復習をしているという意識を持つ児童の割合を70%以上にする。 社会の出来事や事件に関心を持つ児童の割合を10ポイント以上アップさせる。

(2) 教科

国語の授業では，分からない言葉や漢字は，辞書を使って調べています。



算数の授業では，考え方やとき方を絵や図などに表したり，まとめたりしています。



	児童の回答と学校の指導についての課題 (◎「基礎・基本」, ◇「全国」)	授業改善の方向性や具体的な取組み
国語	◎国語の勉強が好き・楽しみにしているという児童の割合が，昨年度より若干下がり50%である。国語の授業において問題解決的な学習をあまり行っていなかった。 ◇相手・目的意識を持たせる場の設定や適切な構成などの指導を工夫し書く指導を行ったが，目的に応じて資料を読んで自分の考えを書いたり，意見を発表するときうまく伝わるように工夫したりしていると感じている児童が少ない。書くことにおける回答が低いのは昨年と同様である。	<ul style="list-style-type: none"> 国語の授業はよくわかるから好きだという児童を増やすために，国語の授業力を高める。国語の説明文単元の授業研修を行い，指導力の向上を図る。 考えたことをワークシートに書かせるようにしていたが，何を書かせるかを明確にして自分の考えをノートに書かせるように改善を図る。
算数	◎授業の中で話型を示して理由を説明させるようにしたが，理由を挙げて自分の考えを説明したり，考え方を絵や表に表したりまとめたりしていると思っている児童は，昨年度より若干下がり約半数である。 ◇考え方や解き方を書くための支援の工夫を行ったが，問題を解くとき，別の方法を考えたり考え方や解き方がわかるようにノートに書いたりしている児童の割合は約半数である。	<ul style="list-style-type: none"> 授業の中で，立式の理由や問題解決の方法を話型をもとに説明をさせていたが，話すだけでなくノートに書かせ，わかりやすいまとめ方を指導する。 ノート指導を系統的に行っていなかった。ノートの書かせ方を全校で統一したり，わかりやすい書き方をしているノートを紹介したりして，ノート指導の充実を図る。

来年度の目標値	目標設定
	<ul style="list-style-type: none"> 国語の勉強が好き・楽しみにしているという児童の割合を70%以上にする。 算数の考え方をまとめて書くことができる児童の割合を70%以上にする。

指導改善のための実施スケジュール

